社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

絆

きずな

第６６号　　８月号
購読料１部 100 円
（会員は会費に含まれています）

ホームページアドレスが変わりました！

発行： 社団法人日本自閉症協会　発行責任者：宍戸良朗
支部長＆事務局：河村舟二　〒 639-1055　大和郡山市矢田山町 84-10
TEL&FAX 0743-55-2763
http://www.eonet.ne.jp/~asn/

自閉症児・者の生活支援と家族協力事業
第１回２回講座のアンケートから

７月６日第１回講座から
午前「自閉症の理解」飯田順三 氏
午後「ダダくんの暮らし～本人を真ん中においたらこうなった」奥平綾子 氏

数多くの方からアンケートをいただきました。第１回目の講座のアンケートの回収の構成は、幼稚園・保育園・小学校、中学校・養護学校の関係者－２４人。作業所、施設の指導員－７人、家族・親族１８人、ボランティア４人、療育士等の方からでした。これまでの自閉症協会の講座に参加あり２１人　なし３１人

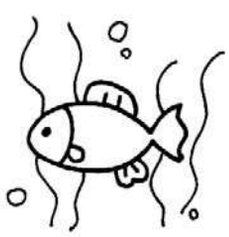
◎どうしてこの講座に参加しようと思われましたか？
○自閉症の人たちの支援のあり方を見直したい。
○自閉症について理解したい。
○理解しているようで、出来ていない日常生活の見直しをするため。
○自閉症の幼児・児童・生徒を担当しており理解と支援の方法を学ぶため。
○自閉症の息子との生活を取り入れたくて。
○療育のヒントを得るため。

◎これまで自閉症の人たちについて不思議に思われたり、困ったりしてきたことはありますか。
○どういうふうに接すればよいのか。
○パニックへの対応の方法
○なぜ急に泣き出すのかがわからない。（５歳）
○思春期の対応に困っています。
○外見からではわからないため、周りの人の理解を得るのが難しい。
○納得していただくことの難しさ。
○うれしい、悲しい「みんなと一緒に出来て楽しい」等の感動をどう伝えればいいのか。
○偏食
○乱暴なことばと衝動的な行動をすること。

◎そのことについて納得できたり、解決の見通しが出来たりしましたか。
○手がかりがたくさん見つかりました。
○予防の手だてを講じることの大切さを教えられました。
○自分のやり方が正しいか知りたいです。（家族）
○納得していますが、見通しがつきません。
○とても具体的な話だったので、是非参考の差さていただきます。
○本人を真ん中において出来ることと、わかることを支援し「～出来る」という気持ちを育てていくことが大事ということが再認識できました。
○凄く共感出来たし、自分のやり方、考え方に自信を持つことができました。
○凄く勇気づけられました。
○自閉症のことをよく知らず、我慢させたり、力をのばそうとして楽しくない活動をしていたなと思いました。

○保護者としての考え、その支援者としての考えの療法を効かせていただき大変よく煮立つとと思います。
○午前中の講座では、日頃悩んでいた子どもの対応の仕方についてとても良いアドバイスになりました。
○保護者の方とたくさん話をして、子どもとも、失敗があってもどんどん向き合って、まず、「子どものために」一緒に悩んだり、何でも挑戦して行こうと思っています。

◎今日の講座の感想
○色々勉強になった。障害者との関係に対するしっかりした考え方がわかった。
○午前午後の内容とてもわかりやすかった。そして元気がもらえる内容でした。
○わからないことがたくさんですが、私たちの感覚を変えてみること、押しつけないこと、自閉症の人の感じ方を文化としてとらえ理解して共にいきていくことがたいせつなんだなと思いました。
○飯田先生のお話は大変参考になりました。家族での話し合いをして、一歩ずつ進みたいです。ハルヤンネさんのお話は、わかりやすくほめることの大切さ、自立、本人の立場にたってもう一度生活を考え直したいです。



７月２６日第２回講座から
午前 養護学校での実践　野畑光代 氏
午後 地域小学校での実践 浅井郁子 氏

今回のアンケートの構成、幼稚園、保育所、小学校、中学校の教師１２人、作業所・施設の指導員１人、家族・親族８人
◎どうしてこの講座に参加しようと思いましたか
○現在担任している子どもの指導、支援に役立てるため。
○自閉症について理解したいから、もっと深めたいから。
○今担任している子どもが自閉症でコミュニケーションの難しさを感じているから。
○前回の講座がとても良かったので。

◎これまで自閉症の人たちについて不思議に思われたり、困ったりしてきたことはありますか。
○急に泣き出すことがある。
○個人によってかなりの違いがあり、どのように対処して良いかわからない。
○どのようなことに興味を持ち、どのような活動が楽しいと感じているのか、また、それらのことはこちらからの提示提案で築くことが出来るのか。自分としては、「できる、したい」と思って関わっているが糸口がつかみにくい。
○多動性、こだわりが集団生活の中で受け入れられないものであったため、上級生になるにつれ、全校生への理解が得にくかったこと。
○試行錯誤でやっています。
○今回の講習と、今後の勉強で徐々に解決の方向に進んでいきたい。
○この講座や実際の関わりから模索している段階である。
○難しいです。
○見直してみます。

◎今日の感想
○２学期からやってみようと思うことがたくさんありました。不安な気持ちをなくせるように、自分で理解して行動できるように、そして、サポーターを増やせるようにがんばっていきたいと思いました。

○３歳半ですが、これからの発達に応用すべきものがたくさんありました。
○知らなかった世界も、見えてきた油に思う。
○具体的に色々な取り組みや教材などわかりやすく見せていただいて本当に良かった。
○たくさんのスライドやビデオが大変参考になりました。
○教材作りや子どもへの構造化の工夫、先生方の努力がよくわかってわたしもがんばろうとやる気が出ました。

たくさんの方からのご意見感想があり紙面の都合上全部掲載できませんでした。

◎今後このような講座では、どんな藩士を聞きたいですか。
・自閉症の方の就労への取り組みについて（特に本人への働きかけと事業所への働きかけ）
・自閉症の認知発達課題の実践
・軽度や年齢が上の人の語り
　中学、高校生の親の話
・今、目の前にいる子に、どんな課題がよいか知れる具体的な話
・思春期成人に向けての問題解決
・実際子育てされて子どもが安定している家族の方。
・子どもが１８才になるのでこれから先、青年期以降のことについて。
・中学生以降､思春期から気をつけること親がやっていくこと。
・大人の自閉症の方についての講演をしてくださる方
・自閉症・発達の遅れを持つ子の父母と（育成会）懇談会を年２回持っているのですが、そんな意見交換会もあれば…と思います。
・お母さんの参加ができるように託児の設定も考えて頂ければうれしいです。
・ボランティアさんの募り方地域で周りの方に協力していただくための手だてを細かく教えて欲しいです。（家族）
・自閉症の本人の人の話
・乳幼児の早期療育のやり方について詳しく知りたい。どうやって身辺自立の援助をするか。託児があるともっと勉強会に参加できるのでよろしくお願いします。
・障害児の学童保育について
・自閉症の子や自閉症の人たちの気持ちを理解できるようなこと
・自閉の方の本人のお話をきかせていただきたいです。
・障害を持っている子ども達と健常児との関わりについての講座があれば参加したいと思います。
・地元の中学校に行っている子ども達の様子、まわりの子どもたちの関係づくりについて、実践を聴かせていただければ。
・対処方法と自閉症の保護者の心のサポート方法。
・親・教師・施設職員等、実際自閉症者と関わっておられる方の体験談。
・やはり、コミュニケーションの取り方、実践について。
・今日のように理論と実践を分かりやすく教えていただける方のお話をきいて勉強したいと思います。
・家族の接し方、育て方について
・思春期の問題、エピソードどう対応したか聞きたいです。
具体的な講師名
杉山登志朗
寺尾孝士
真鍋龍司
岡田先生
野畑先生
つくしんぼ学級の先生
腹巻智子
野畑先生に「課題製作会」をやっていただいてはいかがでしょうか？」支援グッズ・サポートブックなどの製作会もいぎがあると思います。
京都の精神科医
前田ハル子先生
赤間公子（２人）
明石洋子さん（２人）
西田清先生

会員紹介（療育部編）

桜井　元（H 8．12．16）

両親と三人暮らしの小学校一年生のわんぱく坊主です。地域の小学校の障害児学級に在籍しています。自閉症と三歳前に診断されました。今まで生きてきた中で一番つらかった日になりました。障害を受け止めるのに、(恥ずかしいですが、)私自身かなり時間がかかってしまいました。でも、今はにこにこ笑顔の元に、私の方が元気をもらっている毎日です。

このあいだ、元が花のつぼみを見て「ねんねしてる～」と私に話しかけてきました。なんかじ～んときて涙が溢れてきました。(とっても親ばかですね。)でも、この素直な優しい気持ちを守っていけたらなーと思いました。親でありながら、まだまだ元のことを理解できなくて、「わー宇宙人」て思ってしまうことがありますが、ゆっくり、ゆっくり、一歩づつ、一緒に成長していけたらなーと思っています。

暑くて長～い夏休みがやってきます。プール大好きの元に水泳を習わせてみたいなーと思っているのですが、なかなか障害児を受け止めてくれる教室がないので困っています。どこかにないかな～・・・？

会員の皆さん、今後ともよろしくお願いいたします。

二宮　健（たけし）7 歳の母　真理です。

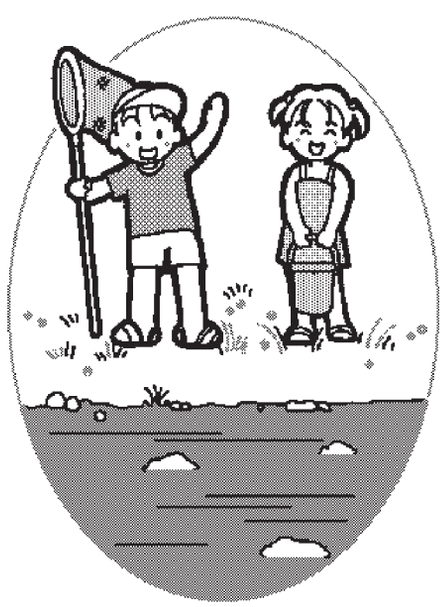
健は自閉性障害で地域の上牧小学校に通い、障害児学級にも在籍しています。学校を決める時、養護学校か上牧小学校か、ずい分迷いましたが、小さい時の方が地域と関われると聞き、少しでも経験をと思い、上牧小学校を選びました。今年の担任は、原学級と障害児学級二人とも当たりで、健に合わせて指導してくださり、安心しています。入学当時、保育所と違う環境で泣いてばっかりいた健でしたが、今は昼休みが大好きで、外遊びで身体を動かしています。給食は牛乳以外は食べてくれています。牛乳は保育所の時から飲めなくて、学校でもイヤイヤしていて今もまだ飲めなくて、スポイド 1 滴のみになっています。学校が慣れてきた頃、雨の日に限ってパニックを起こすようになり、不安になった私ですが、同じ自閉症児を持つママさんからのメールで助けていただいています。

私も前に挙げた通り聴覚障害をもっていて、健とコミュニケーションがスムーズにいかなくなった事もしばしばあります。こちらはカードや写真で健に伝えていますが、健から言いたい事がつかめなくて、はがゆく思うことがあります。これからも、まだいろいろあると思いますが、経験を積んで、健とスムーズにやりとりができるようにがんばりたいと思っています。

健も少しずつ成長して来ているので、それにあわせて見守りたいと思います。

今年の 3 月、ミニチュアダックスの犬を飼い、健はかわいがる事を覚えてくれて、自分より下の子にはかわいがる事に成長したなと思っています。でも、かわいがり方が荒っぽいのが欠点だけど。

また、行事にも参加したいのでよろしくお願いします。



療育部からのお知らせ

報告が遅くなりましたが絆の原稿入力のお手伝いをして頂く会員さんが交代になっています。
山口さんから湯浅さんにバトンタッチです。
「山口さん、２年間お手伝い頂き、ありがとうございました。」
山口さんから一言、頂戴しております。

会員の皆様こんにちは。
今年の春まで約２年間“絆”の入力のお手伝いをさせて頂いていました山口です。
自分の出来る範囲でお役に立つことがあればと思い、入力をお引き受けしていました。
おかげで、“絆”をより入念に読むようになりました。
この４月から我が息子も中学生。親子ともども新しい未知の世界へまた一歩踏み出しました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（療育部　　山口）

★事務局から

★　講演会「イギリス自閉症協会に学ぶ」
～自閉症の人たちと家族への総括的な支援～
主催：日本自閉症協会　朝日新聞厚生文化事業団
後援：厚生労働省　文部科学省

自閉症の人たちのための研究をはじめ、この分野での最先進国であるイギリスの自閉症協会（NAS）は、本人やその親をサポートする上で、親の会として世界で最も先進的な取り組みを続けています。自閉症本人や親などへの種々のサポートはもちろんのこと、協会による自閉症学校の設立・運営、行政への働きかけ、多くの良質な出版活動など、多岐にわたるサービスについて、同協会の中心的な役割を担うディレクターに話を聞きます。
日時
《京都》2003年９月１５日（祝）
京都市呉竹文化センター
京阪本線・近鉄京都線「丹波橋駅」前
※他に《仙台》９月１１日
《熊本》９月１８日で開催
講　師　リチャード・ミル
（イギリス自閉症協会クリニカルディレクター）
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ　門眞一郎（京都市児童福祉センター）
参加費　　３，０００　円
定　員　　600人まだ空きがあります。
申し込み
①お名前（ふりがな）②〒・ご住所③℡・Fax④ご職業⑤ご希望日・会場名をご明記の上、下記までFax・Eメール・はがきのいずれかでお申し込み下さい。
日本旅行東京法人営業部「NAS講演会」係
〒105-0004
東京都港区新橋2-16-1 ﾆｭｰ新橋ﾋﾞﾙ９階
fax　０３－３５９３－０６８８
℡　０３－３５９３－０３２１
E―mail　tokyohojin_office @ nta.co.jp

★社団法人日本自閉症協会奈良県支部主催
自閉症児者の生活支援と家族交流事業
第３回講座のご案内
○日時：2003年　　８月22日（金）
9:30　　受　付
10:00～12:00
「サングループ事件からみえたもの」
青山　佳史氏
13:30～16:30　障害者支援のあり方
「ちがうことこそ　ええこっちゃ」
牧口　一二　氏
○場所：はばたきホール
（北コミュニティセンターISTAはばたき）
生駒市上町1543　℡0743-71-3331
富雄川沿い：真弓橋バス停南。駐車場有り。
バス富雄駅発　8:37　9:01　9:21　9:41　２番のりば・運賃大人250円10分
◎講師紹介
○青木　佳史　弁護士：福祉関係の訴訟経験多数

の弁護士：64 年 1 月 23 日生まれ、87 年京都大学法学部卒、89 年大阪弁護士会登録、きづがわ共同法律事務所（大阪市浪速区所在）所属、97 年 10 月～ 大阪後見支援センター（あいあいねっと）専門相談員、98 年 5 月～ 大阪弁護士会・高齢者・障害者総合支援センター「ひまわり」運営副委員長、99 年 2 月～　大阪府下の特別養護老人ホームで施設オンブズマン 00 年 4 月～ 02 年 3 月大阪府「利用者本位の福祉システム専門検討委員会」委員、00 年 9 月～ 02 年 3 月大阪府「福祉サービスの第三者評価に関する調査検討会」委員 01 年 5 月～日弁連「高齢者・障害者の権利に関する委員会」事務局員、01 年 6 月～「身体拘束ゼロ作戦大阪府推進会議」委員、01 年 8 月～ オンブズマンネットワーク「なにわオンブズネット」（愛称『なにわっと』）のメンバー、02 年 4 月～「福祉サービス第三者評価システム推進支援会議」委員。福祉関係の主な訴訟としては、「市立尼崎高校障害者入学拒否事件」。「大阪市ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰ派遣拒否訴訟」。「滋賀　サン・グループ国家賠償訴訟」。「生活保護・障害者加算漏れ国家賠償訴訟」

今回の講演では、「成年後見人制度」と、サングループ事件の弁護団の御一人としてかかわってこられた体験を通し、感じられた事を中心にお話をお願いしています。

○牧口　一二　氏　1937 年大阪生まれ。グラフィック・デザイナー。被災障害者支援「ゆめ・風 10 億円基金」事務局長。障害者文化情報研究所所長。誰でも乗れる地下鉄をつくる会代表。駅にエレベーターを！福祉のまちづくり条例を！大阪府民の会代表。大阪市立大学・桃山学院大学・開西学院大学などで非常勤講師。ＮＨＫ教育テレビ『きらっと生きる』の常任コメンテーター。

牧口さんは 1 才の時にポリオが原因で足が不自由になりました。牧口さんは毎朝、電動車椅子で職場へ通っておられます。職業はグラフィック・デザイナーです。障害者団体のポスターやロゴづくりが主な仕事です。牧口さんは障害・年齢・考え方や立場の違う多くの人と語り合います。牧口さんはいつも言います。「障害は　個性だ」。さまざまな個性を持つ人たちと、牧口さんは語りあいます。きらっと生きる番組のお父ちゃん牧口一二さんはこんな人より。

牧口さんの著書

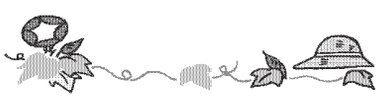
「ちがうことこそ　ええこっちゃ」…僕は障害をもつことで自由を得たと語る。牧口さんが全国の学校をめぐる会心のハートフル・エッセイ。

その他「　風の旅人」「雨あがりのギンヤンマたち」「夕やけ空のオニヤンマ」

「あなたと障害者と」「何が不自由で、どちらが自由か」がある。

事務局：〒 639-1055 大和郡山市矢田山町 84 の 10
℡・fax 0743-55-2763
E-mail：kawafune@ares.eonet.ne.jp
ホームページ「きずな」http://www.eonet.ne.jp/~asn/

★申し込みは　参加者の住所氏名　所属　電話をはがき・fax・E-mail にて知らせて下さい。（電話不可）



編集後記

残暑お見舞い申し上げます。

夏！！を感じる前に立秋を迎えてしまいました。何か物足りない夏です。　支部ニュースについての感想、ご意見等がありましたら、宍戸（0742-49-3855）までか、または、最寄りの支部役員までお願いします。